

Q11 授業中の問題と思われる行動への対応

〈このような状態は自閉症の特性からきています。〉

Aちゃんは、授業中に突然大きな声でコマーシャルを言うなど、状況に関係のないことを話すことがあります。Aちゃんの場合は、授業の内容がわからない時だけでなく、教室が暑い、音がうるさいといった、心身に不快を感じる時にも声を出しているようです。

このように、自閉症の子どもの授業中の問題と思われる行動は、授業内容がわからないことの表現であったり、生理的な過敏性の問題に対処してほしいというサインだったりします。また何でも一番になりたい、あるいは間違いを嫌がるといった、こだわっていることがうまくいかない場合のサインである場合もあります。

〈このような場合の支援 1〉

小学校4年生の知的障害を伴う自閉症の女兒。自分の得意な教科は学習できるが、分からない学習のときは、教師に向かって「ごきぶり」などと話しかけ周囲の笑いを誘って喜んだりしています。このような場合、支援の方法としては以下のようなことが考えられます。

- ① みんなと同じ方法を要求するのではなく、その子どもがうまく授業に参加できるような配慮も必要。
- ② 授業に関係のない言葉を言った時は、無視することも時には必要。
- ③ 言葉の理解の点で困難を生じている場合が多い。なるべく見てわかりやすいものを用意し、学習への参加を促すようにする。授業が言葉のやりとりだけに偏らないような工夫が大切。
- ④ 始めから困難が予想される時は、その子どもが学習可能な別のプリントを用意することも大切。内容は作業的なものがよいと思われる。

〈このような場合の支援 2〉

小学校3年生のアスペルガー症候群の男児。いろいろなことにこだわりがあり、一番にならないと気がすまない、指名されないと怒る、女の子へのこだわりから女の子が誉められると怒る、などがあります。このような場合、支援の方法として以下のようなことが考えられます。

- ⑤ 授業に入る前に、予測できるこだわりについて話し合い、その結果を紙に書いて貼っておく。また怒るのなら始めから参加しないことも含め、本人の自覚を促す（必ず成功が予想される形の約束をする）。
- ⑥ パニックを起こしたときは、パニックが収まって本人から話しかけてくるまで待つ（避難場所の設定）。
- ⑦ 「どうして僕はこうなんだろう」と自己否定をするような言動が見られる場合は、本人の良い点を言って励ますとともに、教師や周囲にどうしてほしいのかを聞くなど、周囲の対応の仕方を一定にする。
- ⑧ 自分だけが指名されればよいという、一見わがままと見える行動をとりがちだが、そんな時は座席を教師の近くにして、教師が個別に声をかけたり、頭や背中に手を置くなどすると我慢できることもある。

学級担任の記録(メモ)

<項目の利用回数>



月／日	対象児の問題	教師やクラスの子どもの対応	対応後の対象児の様子